

懇話会 2025 年第 1 回

企画委員会

今回も 2 テーマで開催しました。最初のテーマは、都心の新宿区で発掘された江戸時代の陶磁器のお話です。江戸の町は、幕府が城下町を築き、諸国の大名が参勤交代で江戸屋敷に逗留し、それに伴い多くの商人や町人が生活をする大消費地でした。陶磁器も日本中から優れたものが、この消費地に運び込まれました。これが、現在遺物として江戸期の地中から発掘されます。物流、趣味、生活程度などがこれらの遺物から読み取ることができるようで、興味深いことです。

次のテーマは、インドの東に位置するスリランカのお話です。セイロン島として日本ではおなじみです。この地で、ボランティア活動をしている NGO 法人ワンワールド・ワンピープル協会(OWOP)の方から、その活動状況を紹介していただきました。アーナンダ女学校での活動の状況は、WSC の日本語ボランティア活動にとって大いに参考になる内容です。出席者に嬉しいことは、スリランカの雰囲気を感じたスクッキーが OWOP から提供されたことです。またセイロンのミルクティーもありました。

今回も、猛暑を吹き飛ばす有益なお話に、会員の熱心な聴講で盛り上がった懇話会でした。

日 時：7 月 9 日（水）13：30～16：30

場 所：東京ボランティア市民活動センター A 会議室

（JR 飯田橋駅隣接セントラルプラザ 10 階）

参加費：会費 300 円

参 加：17 名



ていました。

講師のお話興味津々

13：30 開催挨拶 理事長

「このところ猛暑が続きますが、これを跳ね飛ばすようにお元気にご参加です。これは、6 月の「うなぎ重賞味」の会で得たパワーのおかげでしょうか。本日は、体力に加え、知力のパワーを強化する企画です。講師の方々から、実体験に基づいた興味深いお話を拝聴したいと思います。」

13:40 講演 I 新宿区における

「江戸時代の発掘調査で出土する陶磁器」

講師 新宿区文化観光課 学芸員 K 氏

内容 新宿区に、存在した江戸時代の武家屋敷跡などから出土する陶磁器に関する紹介でした。講師が、現場で発掘に関わった体験からのお話で、興味の尽きることのない深さをもつ



新宿区は東京 23 区のほぼ中央

発掘現場は右下地域にある

1. 陶磁器とは

- ・ 4 種に分類される。

磁器；素地は陶石で白色、焼成温度が高い

陶器；素地は陶土で有色、一番馴染み深い

炆器、土器：素地は陶土、釉薬はない

- ・ 産地は現在とほぼ同じ

磁器；肥前、波佐見など

陶器；瀬戸、美濃など

2. 発掘調査での陶磁器の保存までの段取り

- ・ 発掘した出土品は洗浄し、材質別に分類する。
- ・ 割れた破片はセメダインで接着して復元する。
- ・ 陶磁器は、形を計測して写真撮影する。
- ・ 最近では 3D デジタル処理で断面図をつくる。

3. 新宿区内出土の陶磁器の紹介

■内藤町遺跡 新宿御苑の近く

- ・ 江戸時代は高遠藩内藤家四谷屋敷で格式あり。
- ・ 高級な陶磁器が出土している。
- ・ 「青磁染付菊花文大皿」はほぼ復元できた。
- ・ 中国製「青花花鳥文大鉢」が出土した。



■四谷一丁目遺跡 JR 四谷駅近く

- ・江戸城外濠普請で掘上げた土で覆土されている。
- ・町屋の建物群、土蔵跡、地下室などがある。
- ・日常使用の器としての碗、皿が出土している。



- ・徳利や盃が出土し現在の形とよく似ている。
- ・調理具や火鉢、あんかが出土している。
- ・地下式廻室が6室花形に掘られていた。

■尾張徳川家上屋敷跡 市谷本村町現在防衛省

- ・旧石器・縄文時代、平安時代からの複合遺跡。
- ・江戸時代は尾張徳川家上屋敷だった。
- ・江戸時代の玉川上水を引込んだ施設跡があった。
- ・尾張藩御庭焼「楽々園」の天目茶碗があった。



4、おわりに まとめにかえて

- ・出土品は割れていることが前提である。
- ・内藤町出土の豚の蚊やりはユーモラスである。
- ・四谷一丁目出土の日常品は現在とよく似ている。
- ・新宿区歴史博物館では近々発掘物の展示をする。

14:45 休憩 各自情報相互交換・懇談

15:00 講演 II-1「スリランカでの活動」

講師 NGO 法人 OWOP 代表 F 氏
副代表 H 氏



OWOP ワンワールド・ワンピープル協会の紹介

所在地 神奈川県横浜市戸塚区

活動の柱 子どもの教育支援、
スリランカでのホームステイなど

紹介の柱 日本語ボランティア先生募集
ホームステイ in スリランカ

■ B さんのスリランカでの活動

- ・演劇ワークショップ
- ・盆踊り

■ A サンの自宅 サルボダヤ

- ・自宅
- ・カナポン幼稚園での園児の出迎え

■ アーナンダ女学校 ヒングラックゴダ村

- ・OWOP からの顕微鏡贈呈
- ・日本体験学習（ソーメン、折り紙、着物）
- ・日本語ピーチコンテスト
- ・日本語カラオケ大会
- ・風船つき大会

■ 日本語熱が高い OWOP の活動が支援

- ・日本語スピーチコンテストが盛ん
- ・現地に日本語先生不在でも生徒は自主学习
- ・日本語先生資格不問なので参加を願いたい
- ・教科書「つなぐにほんご」を使用する

講演 II-2

「スリランカの魅力とアーナンダ女学校」

講師 NGO 法人 OWOP 会員 K 氏
M 氏



サリー姿で掛け合いスリランカ紹介

支援者二人での掛け合いで、プロジェクターによる生体験の紹介でした。現地で、支援者が撮影した写真や動画からの情報は分かりやすく迫ってきました。

■ スリランカ紹介 日常生活に関わること

- ・気候は高温多湿
- ・国土は面積は北海道の8割
- ・人口は2,200万人強で7割が仏教徒

- ・言語はシンハラ語とタミル語
- ・英語の単語は通じる

- アーナンダ女学校 ヒグラックゴダ村
 - ・首都コロンボから車で6時間の距離
 - ・所在地の街の様子や写真・動画で紹介
 - ・女学校の制服は白色
 - ・生徒の目がキラキラしているのが印象深い

- ホームステイ関連事項
 - ・街中のパイナップルや水牛ヨーグルトが旨い
 - ・移動は三輪車ツクツクが便利
 - ・ホテルのロッジ風では冷房と温水シャワーあり
 - ・民家は平屋がほとんど
 - ・夕食時間は8～9時頃、午前・午後ティータイム
 - ・食事は客が先に済ます習慣
 - ・ワンプレートでカレー風味で混ぜて食べる
 - ・ココナッツ風味のワンプレーもある
 - ・バナナやスイカが豊富
 - ・海水浴は一年中できる
 - ・セイロン紅茶は「午後の紅茶」で有名

- 日本語塾の様子
 - 高校生年代
 - ・日本語の先生不在だが熱心に学習
 - ・ゲーム形式「なんでもバスケット」を実施
 - ・連想ゲームは日本語学習と連動している
 - 小中学生年代
 - ・日本語のノート記述が上手にできている
 - 幼稚園年代
 - ・園児の状況を写真で紹介

- スリランカの衣装 サリー
 - ・スリランカスタイルは胸下に飾りひだがある
 - ・インドスタイルとは違いがある



左 スリランカスタイル
右 インドスタイル

- F スリランカの紅茶とクッキー の提供
 - ・紅茶はセイロンティー
 - ・クッキーは美味

- ・代価はOWOP から現地支援に活用とのこと

- まとめ F 代表
 - ・現地では日本人へ親しみと尊敬をもっている。
 - ・ホームステイ宅は親切である。
 - ・日本語ボランティアに参加してほしい。

16:45 終了



企画者の一人として

(東京都豊島区)

当日は猛暑でしたが、参加者の熱心な聴講で安心しました。

参加しての感想

(神奈川県横浜市)

クイズで、水牛のヨーグルトの正解を当てました。賞品の「午後の紅茶」はひととき味わいのあるものでした。